

10%値下げ

放射性物質調査が終了

東日本大震災に伴う原子力発電所事故以降、停滞していた福島県産米の取引が徐々に回復している。JA全農福島は2011年産米の集荷量約8万トに対して契約実績は26日までに約5万6千トとなり、7割を超えた。1月末に出荷価格を引き下げたことや、放射性物質の緊急調査が終わったことで、徐々に需要が戻り始めてきた。

風評被害が最も大きく、1月末までは契約がほぼゼロだった浜通り産も集荷7千トのうち4千ト弱の契約が成立。全農が、それまで60キログラム（1俵）あたり1万5

福島産米 需要じわり回復



福島産米の取引は徐々に回復している（福島市のJA新ふくしま）

契約7割超、外食中心に

200円だったコシヒカリの価格を1万3700円と約10%引き下げたためだ。これは新潟県魚沼産コシヒカリ（2万3000円）や山形県のはえぬき（1万4500円）など57の品種・地域の平均出荷価格である。福島県産米を巡っては、同県が昨年10月に「安全宣

言」を出した後、1キログラムあたり500円という暫定規制値を上回るコメが相次いで見つかった経緯がある。これを受けて同県は、11年に収穫したコメから微量でも放射性セシウムが検出された地域の全農家を対象に緊急調査を実施していた。

2月に終わった調査では、全体の86%からは放射性セシウムが検出されなかった。1キログラムあたり1000円以下だった11%と合わせ、全体の97%が10月から適用される1000円という新しい基準を満たしていた。国は1000円超のコメを買い上げて隔離する方針を示しており、安心感が出ていることも取引の回復につながっているようだ。